



型名コード / 付加仕様コード (付加仕様コードは指定をしない場合は記入不要)

FK-302F 3 - - / EX / SYS / GEO

システムケーブル長	マウンティングプレート	端子台	本質安全防爆	システム調整 (必須)	地熱仕様
3	15m	1	1	1	
	2	2	4		
	3		5		
	4		8		
			B		
			C		

*1 上記はドライバの型式を示しています。センサと延長ケーブルの型式は外形図を参照ください。

仕 様

標準校正ターゲット	JIS SCM440 平面	温度特性 (温度ドリフト)	センサ : ±4% of F.S. 以内 延長ケーブル : ±4% of F.S. 以内 条件 : ギャップ=3mm, ターゲット: JIS SCM440 20°C 基準で 0°C~80°C の範囲
測定範囲	センサトップより 0.25mm~3.25mm の範囲	使用湿度範囲	30~95% RH (非凝結、非浸せき) (ただしセンサ本体は 100%RH)
感度*2	5.0V/mm	電源	-24VDC±10%以内
感度誤差*2	±4%以内	ドライバ部耐電圧	各端子-マウンティングプレート間 : 500VACx1 分間で漏れ電流 1mA 以下
スケールファクタ誤差*2	5.0V/mm ±5%以内 0.25mm ステップ、リニアレンジ 3mm	ドライバ部絶縁抵抗	各端子-マウンティングプレート間 : 500VDC 時 100MΩ以上
直線性*2	5.0V/mm の直線に対し ±30μm 以内 : リニアレンジ 3mm	適合電線サイズ	M4ねじ式端子台時 : 0.75~2mm ² スプリングロックターミナル時 : 0.2~1.5mm ²
周波数応答*2	DC~8kHz (-3dB)	ドライバ質量	約 200g
最大出力電圧*2	約 -23VDC	その他	_____
センサ異常出力電圧*2	約 -0.6VDC (センサ断線・センサ短絡時)		_____
出力インピーダンス*2	50Ω 電流 5mA(max.)		_____
消費電流(10kΩ負荷)	最大-15mA		_____
出力ノイズ*2	約 20mVpk-pk + 電源ノイズ		_____
センサトップ径	約 ø10mm		_____
ケーブル径	約 ø3.6mm		_____
コネクタ径	約 ø7.1mm		_____
システムケーブル長	15m		_____
使用温度範囲	センサ : -40~+177°C 延長ケーブル : -40~+177°C ドライバ : -40~+80°C		_____
防爆構造上の温度範囲	EX1 : -20~+60°C (センサ,延長ケーブル,ドライバ) EX4 : -20~+85°C (センサ,延長ケーブル,ドライバ) EX5,8,B : -38~+80°C (センサ,延長ケーブル,ドライバ) EXC : -30~+80°C (センサ,延長ケーブル,ドライバ)		_____

*2 の仕様は、標準校正ターゲット SCM440 平面(T=5mm 以上)、-24VDC 電源電圧、負荷抵抗 10kΩ、周囲温度 25°C の条件下におけるものです。

ご使用上の注意事項

- 校正ターゲットについて
校正は、ターゲットSCM440平面(ø30mm以上)で行ってあります。ターゲットの材質・形状が異なる場合、出力特性(ゲイン)が変化しますので、後続の機器で補正してご使用ください。
- 信号伝送ケーブルのシールド線の処理について
FKドライバ~モニタ間に使用する信号伝送ケーブル(3芯シールドケーブル)のシールド線はドライバのCOM端子(スプリングロックターミナルの場合:Shield端子)およびモニタのCOM端子に接続してください。接続していなかった場合、ノイズが重畳する可能性があります。
- 中継コネクタの絶縁処理について
センサと延長ケーブルを接続する中継コネクタの部分は、必ず付属の熱収縮チューブなどで絶縁を行ってください。
絶縁用ビニールテープは高温場所での使用の場合、コネクタ部断線の原因となることがありますので使用しないでください。
油雰囲気中で中継コネクタを使用しないでください。中継コネクタに油が浸入すると、ケーブル容量が増え感度変化の原因となります。
- 信号伝送ケーブルのメガテストについて
信号伝送ケーブルのメガテストを行った場合、テスト後は必ず充電電荷を放電した上で、ケーブルをドライバに接続してください。
充電状態のままドライバまたはモニタにケーブルを接続すると故障の原因となります。
- センサの設置場所について
センサに雨水がかかる屋外では使用しないでください。
センサの感度変化及び絶縁低下の原因となります。
- システム調整品について
本トランスデューサは、システム調整品です。
システム調整品の場合はセンサ、延長ケーブル、ドライバは検査成績表に記載された製造番号の組み合わせで接続ください。
製造番号の組み合わせを間違えると所要の特性が得られません。
センサ等交換する際には、組み合わせ調整されたセンサ・延長ケーブル・ドライバのシステムでの交換が必要です。
- スケールファクタ誤差および直線性について
スケールファクタ誤差および直線性は弊社工場での試験結果を規定するものです。
現場校正の場合にはこの規定値は適用されません。
- 本トランスデューサの用途について
本トランスデューサは、振動計測用として設計されています。
スラスト計測等の変位計測には、5mシステムまたは9mシステム トランスデューサの使用を推奨いたします。
- バリヤ(安全保持器)について
本質安全防爆仕様でご使用いただく場合は、バリヤは下記を推奨いたします。
・ MTL 7796-
本安システムの場合はリニアレンジが狭くなります。(約90%)
- 本システムを安全にご使用いただくための重要な条件等の情報が取扱説明書に記載されており、安全を確保するために必要な情報であり、重要な条件のため、必ず本システムを扱う上で事前に取扱説明書を熟読してください。

構 成

